

## 【 4 】子どもたちの歩行環境（具体的にどのような危険があるか）

### （ 4 - 1 ）歩く空間について大人が感じる問題（A～C'群：大人全体への質問）

**質問** 歩く空間ではどのような問題を感じますか。（思うものいくつでもを）  
 1:歩道がなく、すぐ脇を車が通る 2:歩道があるが狭い 3:歩道に電柱などの障害物がある  
 4:歩道がでこぼこして歩きにくい 5:歩道を自転車が走る 6:歩道に車が乗り上げている  
 7:駐車場から車が歩道に出てくる 8:曲がり角で車と衝突しそうになる  
 9:日陰やベンチがない 10:その他

### ... 道には「歩行空間がない、狭い」の声が多数 ...

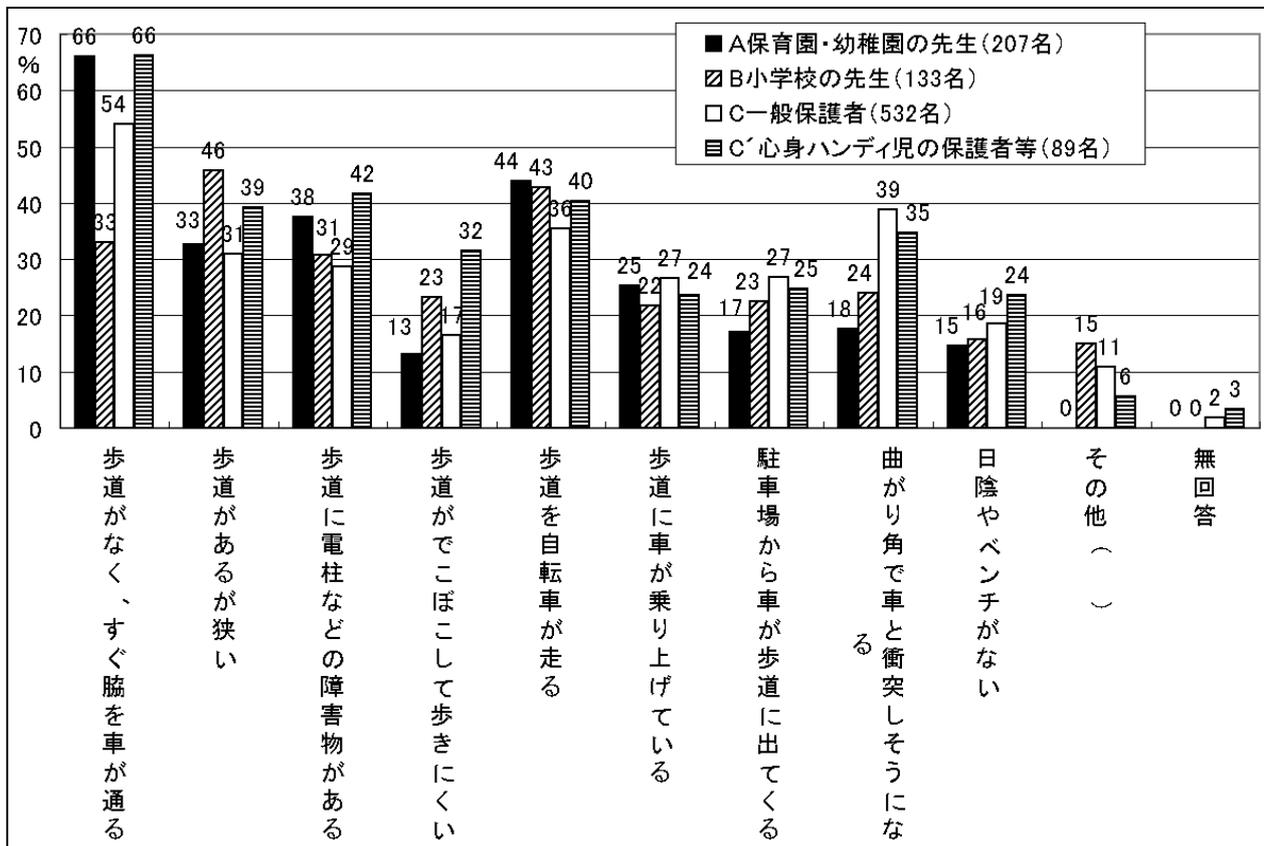
歩行空間について大人の指摘が多いのは「歩道がなく、すぐ脇をクルマが通る」で、特に、保育園・幼稚園の先生と心身ハンディ児の保護者等では7割近くが訴えている。一般保護者では低年齢の子どもを持つ親ほど強く感じていた（p24図4-4-補参照）。日本は歩道のある道路が一般道路の13%しかない（歩道の現状についてはp37参照）。歩道のない道の端を歩行者が身を傾げるようにしてクルマをよけて行き来する光景は珍しくないが、ベビーカーや車椅子を押したり、まだ歩行力も自制心も万全でない幼児を伴って歩いたりする場合は、危険の感じ方もひとしおと思われる。

また、歩道について「狭い・障害物がある・自転車が走る」などの現状を訴える声も多い。名目は歩道であっても、安心して歩ける空間として機能していない所が多いことをうかがわせる。こうした点は一般保護者より心身ハンディ児の保護者等のほうが指摘率が高く、歩行空間にバリアが多いことを示唆している。

「曲がり角でクルマと衝突しそうになる」は保護者の指摘が多く、特に7～12歳児を持つ層で挙げた人の率が高かった（p24図4-4-補参照）。これは右ページの小学生自身の回答とも重なり、生活に使う道路の角かどに危険が潜んでいることを感じさせる。

（図4-1-A）道を歩行中に大人が感じる問題（A～C'群の回答）

回答は複数選択式。数字は各群で選択した人の割合。



**質問** 歩いたり自転車で走ったりする道ではどういう危険を感じますか。( 思うものいくつかを )  
 1:ガードレールがないのでこわい 2:歩道が狭くて歩きにくい  
 3 歩道に電柱や看板などがあってじゃま 4 歩道がでこぼこして危ない  
 5:歩道を自転車やバイクが走るのこわい 6:歩道に車が乗り上げて歩きにくい  
 7:駐車場から車が歩道に出てくるので怖い 8:曲がり角で車と衝突しそうになるので怖い 9:その他

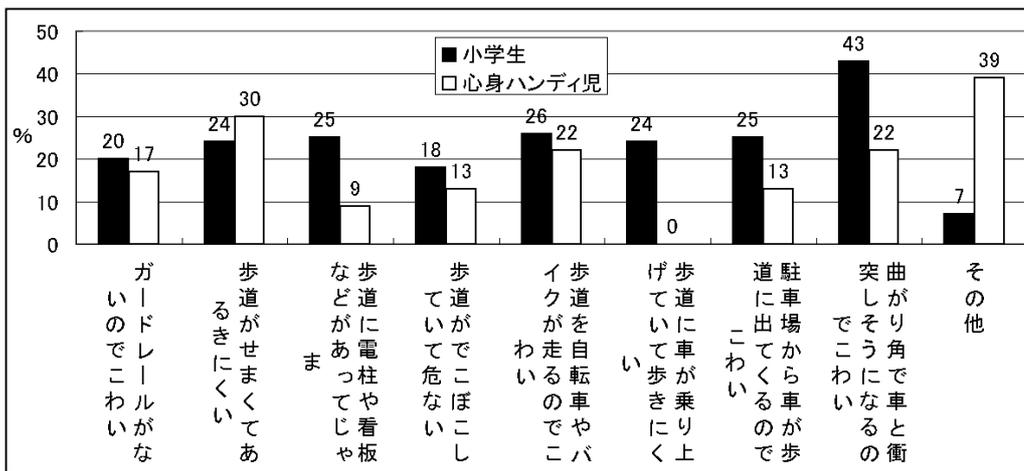
... 小学生らの 4 割以上は曲がり角での危険を感じている ...

子ども自身が道で感じる交通上の危険は、小学生では「曲がり角でクルマと衝突しそうになる」が4割を超えている。その他の歩道についての問題はいずれも25%前後が多く、ほぼ横並びだった。しかし、回答を学年別にみると、ガードレールのないこと、歩道を自転車やバイクが走ること、駐車場からクルマが歩道に出てくることなどについて、低学年ほど怖いと感じ

る子どもが多い。低学年はまだ体自体が小さく、危険回避力なども充分でないため、恐怖心も大きいのだろう。小さい子ほど、物理的な力の差による危険を強く受けとめなくてはならないことを、大人はもっと認識する必要があるようだ。

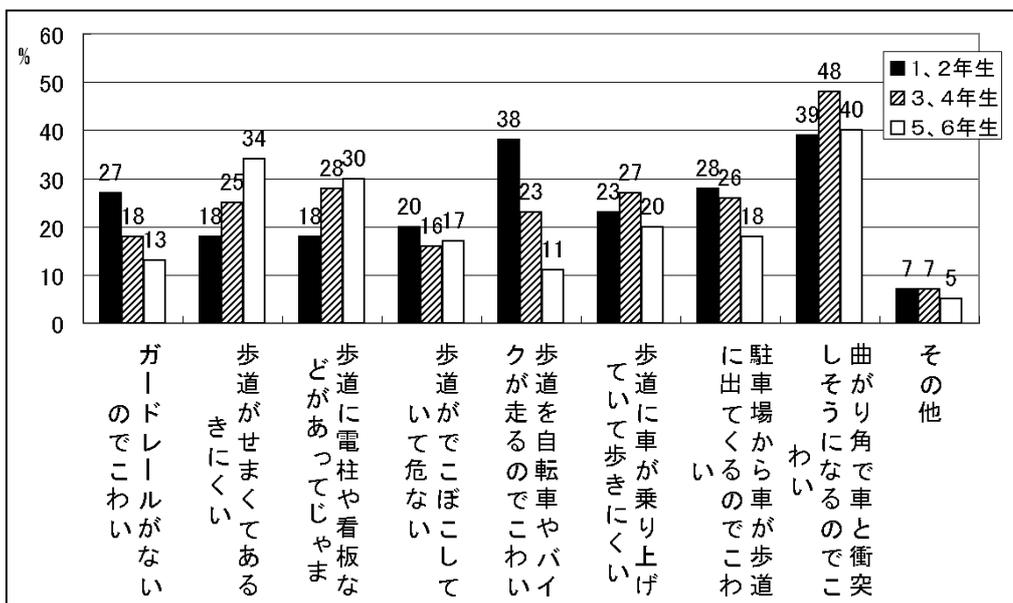
心身ハンディ児で最も指摘の多い危険は、「歩道が狭くて歩きにくい」で、3割あった。

( 図 4 - 2 - A ) 小学生らが道で感じる危険 ( D 群・ D ´ 群の回答 )  
 回答は複数選択式。数字は選択した人の割合



子ども自身の回答

( 図 4 - 2 - B ) 小学生の学年別にみる、道で感じる危険 ( D 群 : 小学生の回答より )



子ども自身の回答

質問 横断歩道ではどのような問題を感じますか。( 思うものいくつかを )

- 1: 渡るときに青信号が短い
- 2: 横断中に右・左折車がせまってくる
- 3: 信号無視などの違反車がある
- 4: 走行量の多い道路なので常に危険を感じる
- 5: 信号がない
- 6: 信号がないので手を上げるが車が止まらない
- 7: 歩道橋を使わなくてはならない
- 8: その他

... 横断歩道では右・左折車の危険を半数以上が指摘 ...

まず、横断歩道で感じる問題(この質問は大人のみ対象)は「右・左折車がせまってくる」が全体平均で最も多く、特に一般保護者では6割近い人が挙げている。青信号で横断中、つまり現行の交通ルールを守って行動していても危険がつきまとい、安心して横断できない現実が示されている。ちなみに、交通統計によれば、幼児(未就学児)の歩行中死傷者のうち約3割、小学生では4割が、交差点内で事故にあっている。

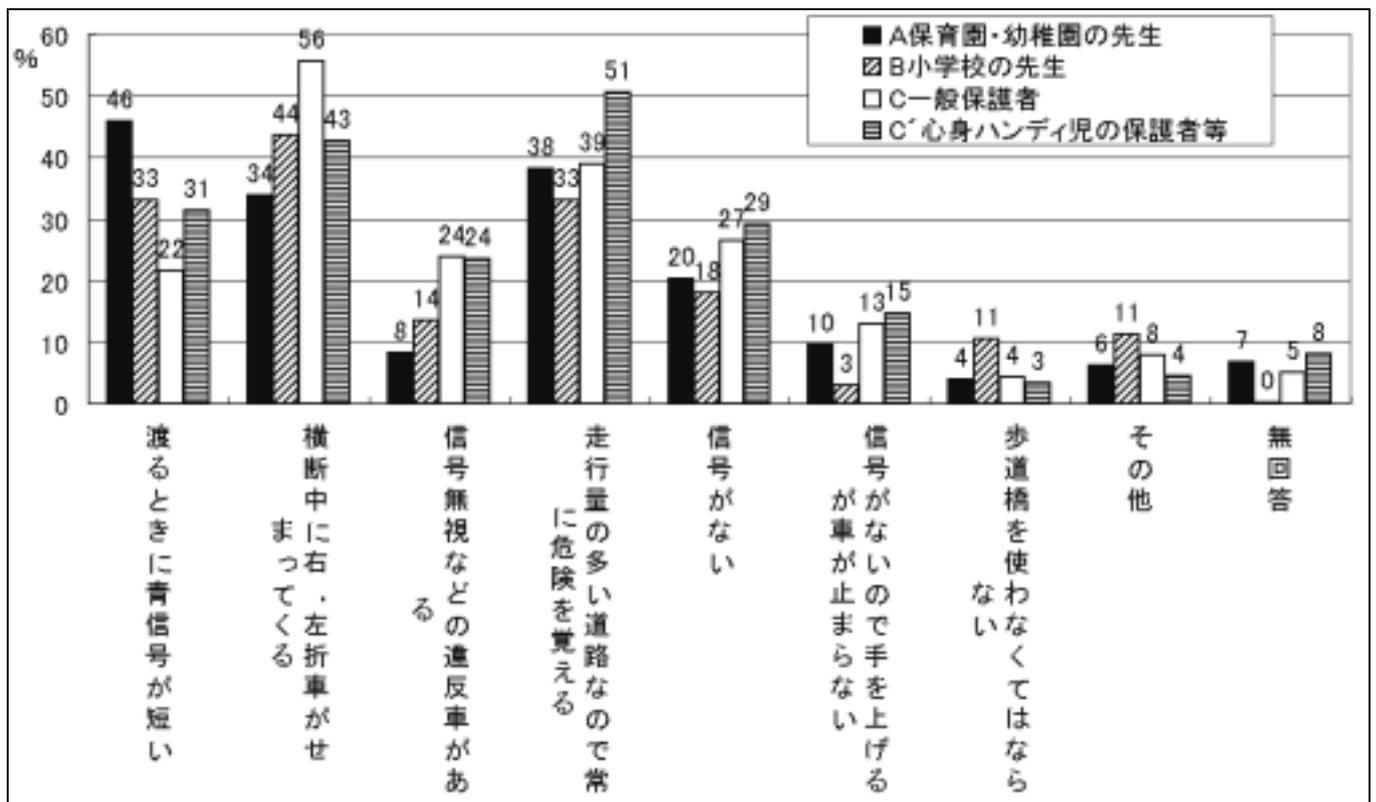
次に多いのは「走行量の多い道路なので常に危険を感じる」で、これは心身ハンディ児の保護者等で丸をつけた率が特に多い。

保育園・幼稚園の先生の回答で最も多いのは「渡るときに青信号が短い」で、幼児の一群を短時間で渡らせる難しさとその苦労が伝わってくる。

「信号がない」という問題は保護者の3割近くが指摘している。

( 図 4 - 3 ) 横断歩道で大人が感じる問題 ( A ~ C ' 群の回答 )

各群で選択した人の割合。回答は複数選択式。





青信号で渡ろうとしても、右・左折車が曲がってくる...



人が歩く場所はどこ...?



歩道はあるんだけど...

質問

そのほか、どのような問題を感じますか。( 思うものいくつでも )

- 1:狭い道も抜け道に利用されて危険 2:車がスピードを出しすぎる 3:排気ガスがひどい  
4:車の騒音がひどい 5:ゆっくり道草を食ったりおしゃべりしたりできない 6:その他

... スピード出しすぎ、抜け道走行の危険への不満も多数 ...

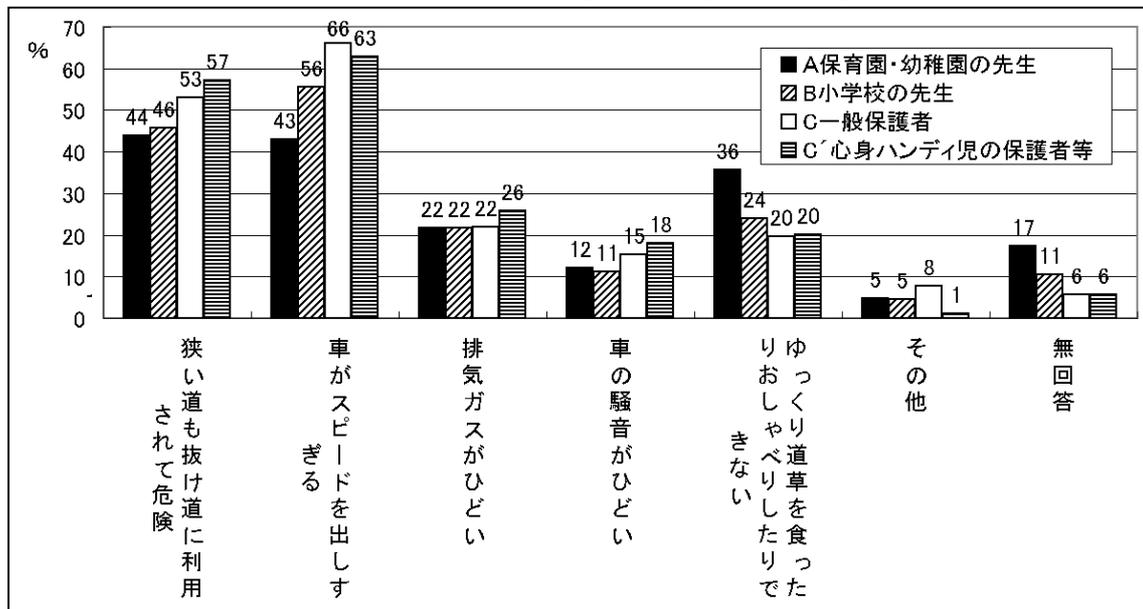
そのほかにも大人が感じる問題として、クルマのスピードの出しすぎや、細街路を抜け道に利用されることへの危険を全体の半数以上の人々が挙げており、特に小学校の先生や保護者で強く感じる人が多かった。

「ゆっくり道草を食ったりおしゃべりしたりできない」には、保育園・幼稚園の先生の4割近くが丸をつ

けている。この問題は、保護者の回答においても子どもの年齢層が低いほど強く感じている( 図 4 - 4 - 補 )。クルマの心配をせずに幼児との会話や自然とのふれあいを楽しむことのできる道が、少ないことの現れだろう。人々にとっての道の役割は?、ということを考えさせられる。

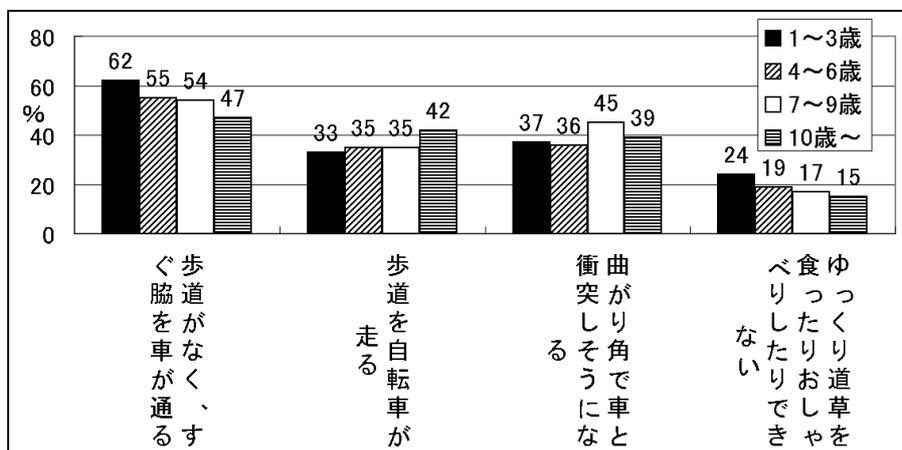
( 図 4 - 4 ) そのほかにも大人が感じる問題 ( A ~ C ' 群の回答 )

各群で選択した人の割合。回答は複数選択式。



( 図 4 - 4 - 補 ) 子どもの年齢層で差の見られた問題 ( C 群 : 一般保護者の回答より )

回答は複数選択式。



( 4 - 5 ) 子どもたちがほかに感じる交通上の問題 ( D 群 : 小学生・D' 群 : 心身ハンディ児への質問 )

質問

そのほかにどんなことを感じますか。( 思うものいくつかを )

- 1:車がスピードを出しているのが怖い 2:狭い道に大きなトラックがよく通るので怖い  
3:自転車で安心して走れる道がないので困り怖い 4:友達と並んでおしゃべりしながら歩けない  
5:車の排気ガスが臭い 6:その他

... 子どもたちはクルマのスピードの怖さとともに、  
排ガスの臭気にも強く反応 ...

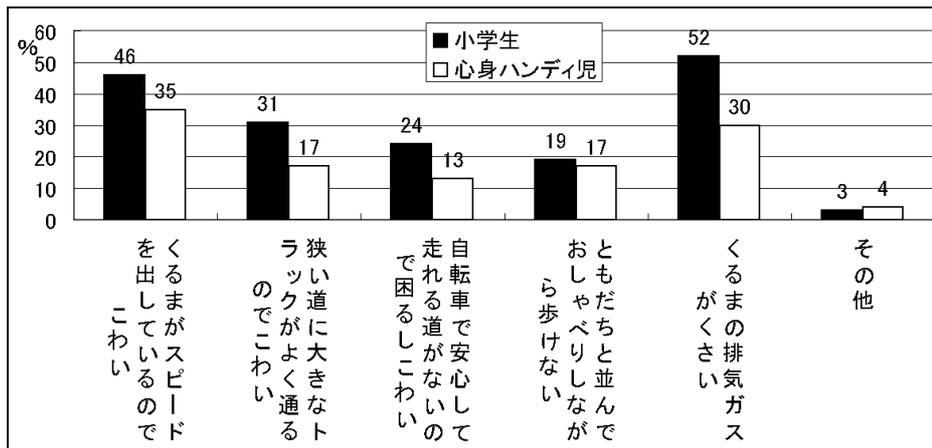
子どもがほかに感じる問題としては、クルマのスピードへの恐怖と排ガスの臭気に対する指摘が多く、また、狭い道のトラック走行の怖さ、自転車で安心して走れない怖さなども小学生の3割前後が挙げている。全体に、低年齢ほどいろいろな怖さを強く感じている。

排ガスへの反応は大人(平均23%・左ページ)よりずっと強いが、これは、身長が大人より低いためにクルマから放出される排ガスをもろに吸いやすいから

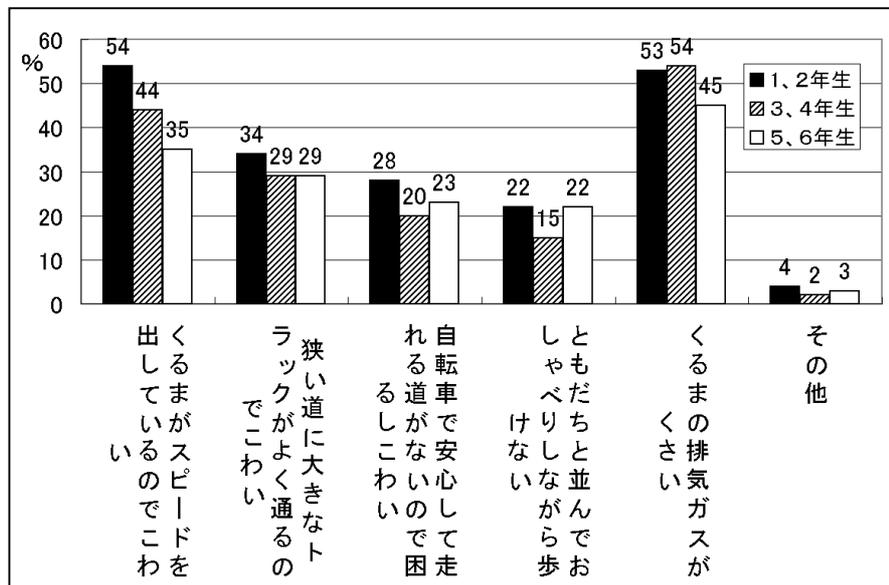
だろう。その分、有害物質を取り込む量も多いことが十分に考えられ、健康への被害が気にかかる。

横断歩道での問題は、子どもへの質問では今回選択肢に入れなかったが、右・左折車の危険や信号を無視して通るクルマの危険はp29の記述意見やp34の事故体験・ヒヤリ体験記述にも数々記されており、少なからず感じていることがうかがえる。

( 図 4 - 5 - A ) 小学生らが交通上でそのほかに感じる問題 ( D 群 : 小学生・D' 群 : 心身ハンディ児の回答 )  
回答は複数選択式。数字は選択した人の割合



( 図 4 - 5 - B ) 小学生の学年別にみる、交通上でそのほかに感じる問題 ( D 群の回答より )



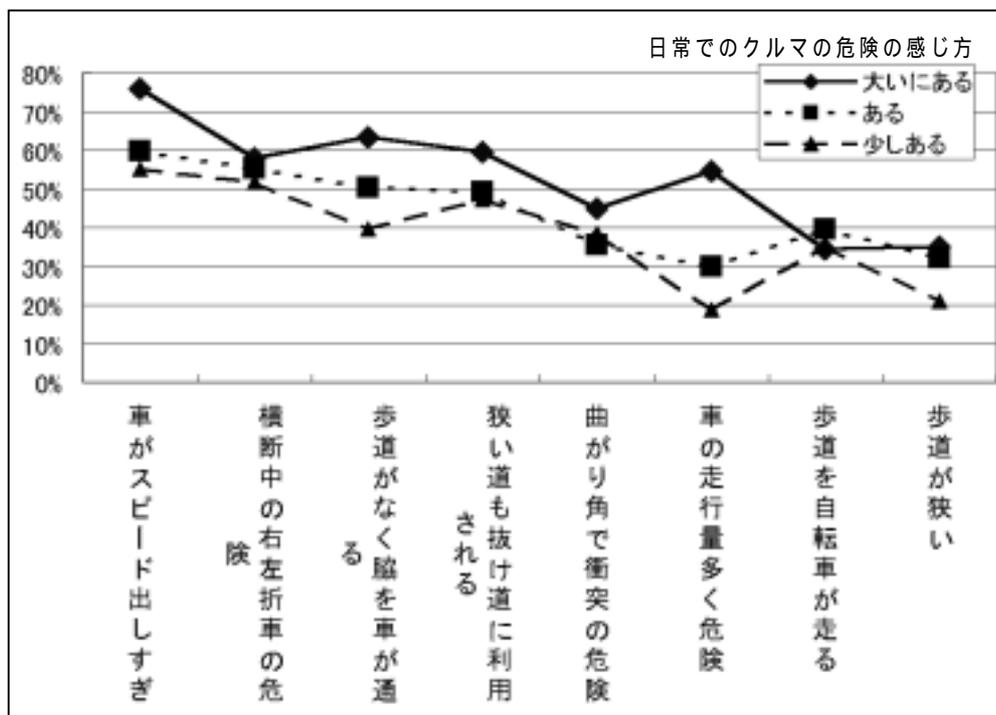
... 危険を特に感じさせる要因は、クルマのスピード、量、狭い道の占領 ...

下のグラフに挙げた 8 つの問題は、大人の回答で、横断歩道での問題、歩行空間での問題、そのほかに感じる問題すべての選択項目のうち、指摘の多い上位 8 項目である。

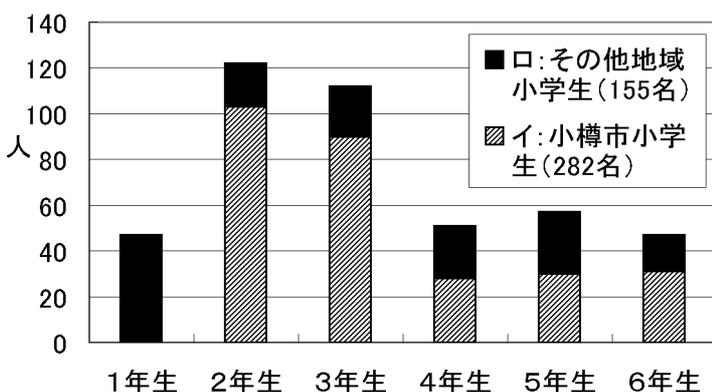
これについて、日常的なクルマの危険の感じ方 ( p 1 6 ) との関連を一般保護者 5 3 2 名の回答で見ると、「危険が大いにある」と答えた人は、特にクルマ

のスピードの出しすぎや走行量の多さ、歩道がないこと、細街路の抜け道利用などについて、他の群より指摘率が高い。クルマの過剰なスピード、量の多さ、生活の場への侵入、これらが人々の身を脅かす三大要因ともいえそうである。クルマが大きな道路にも生活の場周辺の道にもあふれ、法定速度も無視して疾走していく現実が、かいま見える。

( 図 4 - 補 1 ) 指摘の多い 8 項目と、それについての日常的な「危険の感じ方」別の指摘率 ( C 群 : 一般保護者の回答より )



( 図 4 - 補 2 ・ 参考資料 ) 小樽市小学生とその他地域の小学生の学年別人数比 p 2 7 に 関 連



\* 1 ~ 3 年生の割合はイが 69%、ロが 31%、4 ~ 6 年生の割合はイが 57%、ロが 43%。  
 \* ロの居住地は東京都 44 人 ( 14 市区 )、大阪府 40 人 ( 5 市郡 )、千葉県 15 人 ( 5 市 )、北海道 9 人 ( 2 市 )、熊本県 7 人 ( 1 市 ) など 1 都 1 府 1 道 13 県の 45 市区郡。  
 \* イ ( 小樽市 ) の人口密度は約 600 人 / k m<sup>2</sup>。ロの居住地は、7 0 % は人口密度 5000 人 / k m<sup>2</sup> 以上であり、人口密度 8 0 0 0 人 / k m<sup>2</sup> 以上の都市部が 4 6 % を占めている。  
 \* 小樽市居住者が多いのは、当市の小学校 2 校の先生に多大なご協力をいただいたことによる。

... 都市部地域ほど子どものクルマの危険の感じ方は強い ...

D 群小学生の居住地は北海道小樽市が 65% で、そのほかは東京、大阪をはじめ、小樽市より人口密度の高い都市部が多い ( 左ページ図 4 - 補 2 ・参考資料 )。

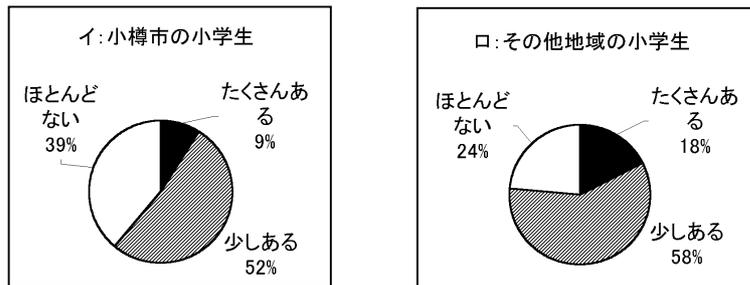
参考として、小樽市の小学生 ( イ ) とそれ以外の地域の小学生 ( ロ ) の回答を比べてみたところ、ロのほうがクルマの危険の感じ方は強い傾向にあった。

また、具体的な道路上での問題についても、ほとん

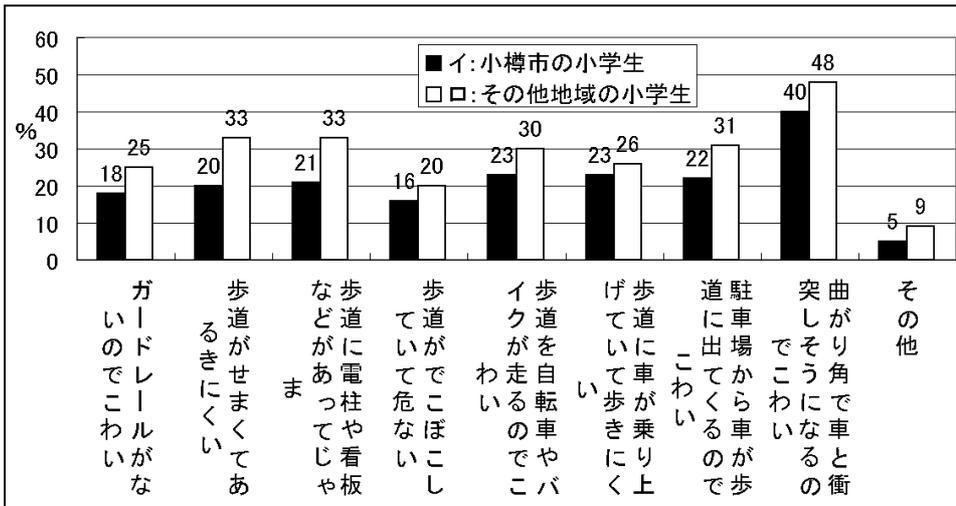
どの項目で点数が高かった。全選択項目 ( その他を含む ) 15 に対する丸つけ数の平均はイが 3 . 5 個であるが、ロは 4 . 5 個だった。さらに、次の項で取り上げる事故体験やヒヤリ体験も、ロのほうが多かった。

ロは小樽市に比べて人口密度がけた違いに高い都市部地域が多いため、自動車交通量も多いためではないかと思われる。

( 図 4 - 補 2 - A ) 小樽市小学生とその他地域の小学生の危険の感じ方の比較

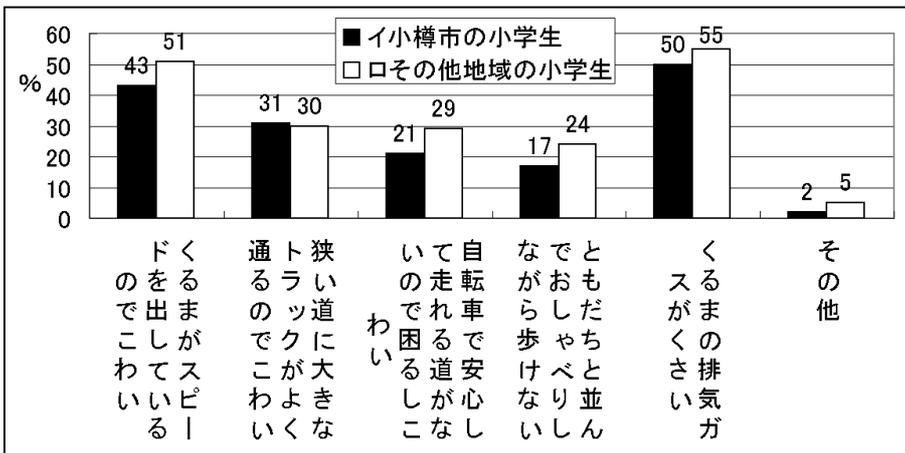


( 図 4 - 補 2 - B ) 2 地域群の「道で感じる交通上の問題」の比較



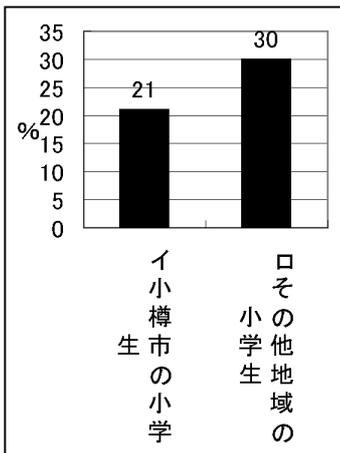
( 図 4 - 補 2 - C )

2 地域群の「交通上でそのほかに感じる問題」の比較



( 図 4 - 補 2 - D )

2 地域群の「事故体験やヒヤリとした体験の回答率」の比較



... 路上駐車、雪道、信号無視...ほかにも問題は多い ...

大人の歩行環境への質問の「その他」欄に記入された意見は4群を合わせて延べ232件あった。内容は、路上駐車や歩行者無視などドライバーのルール違反や意識に起因する問題と、雪道での歩道の除雪の悪さや歩道の粗末さ、また信号や横断歩道の不足や不備といった道路空間の構造的な問題が多い。

そのほか、住宅街への大型車の進入、自転車の脅威などさまざまな意見があり、歩行者の安全は、まち作りや市民の暮らし方全体に関わっていると感じさせる。自転車については「車道を走ることを学校で禁止しているため歩道を走る」という趣旨の意見もあり、自転車が安心して走れる空間の不足も浮上している。

「その他」欄への大人の記入意見 (一部)(A~C群の回答)

( )の数字は同種の意見が複数ある場合のその数

運転者のルールやマナー、意識の問題 ( 87 )

\* 路上駐車が多くて見通しを妨げられて危険 ( 23 )  
\* 角の駐車など違法 \* 歩道に駐車している \* 家の横でエンジンかけたまま寝ている \* 横断歩道で歩行者が待っていても止まらない ( 8 ) \* 歩道のない道で歩行者がいても減速しない ( 6 ) \* 子どもがいても脇を通る際スピードを緩めない ( 5 ) \* トラックなどスピードを出しすぎる ( 5 ) \* 運転者のマナーが悪い、横柄 ( 4 ) \* ドライバーに歩行者優先意識がない ( 4 ) \* 携帯電話しながら運転して注意力散漫 ( 3 ) \* 信号の変わり目に交差点に突っ込んで横断歩道で停止 ( 3 ) \* ウィンカーを出さない ( 2 ) \* スピードをあげてカーブする車があり危険(耳が聞こえないので速い車に気づきにくい \* 道路だけがよくなりすぎてスピード出しすぎが多い \* 生活道路なのに人間を邪魔者扱い \* 通学路の通行時間制限を守らない \* 赤信号でも通行していく車が多い \* ノルマを果たすためか車があくせくしている、など

歩道など歩行環境の構造上の問題 ( 45 )

\* 積雪時の除雪が不備で歩道を歩けない ( 6 ) \* ガードレールがない・途切れている ( 6 ) \* 歩道が傾斜して歩きにくい (ベビーカーや自転車にとっても不便) ( 4 ) \* 商品、看板などが歩道を占領 ( 4 ) \* 歩道が途切れる ( 3 ) \* 水路がすぐ脇 ( 3 ) \* U字溝がふさがっていない ( 3 ) \* 歩道と車道の交差部が多くて危険 ( 2 ) \* 雪道でスリップした車が歩道に上がってくる \* 通学路のほとんどに歩道がない \* 歩道が狭くて横断した子どもを待たせる空間がない \* 道が細くてベビーカーと車がすれ違えない \* 歩道が狭い通学路なので車道に出て歩くしかない \* 自転車で車道を走るとは学校で禁止している。そのため「歩道を自転車が走る」ということになる、など

横断歩道や交差点、信号の問題 ( 41 )

\* 信号がなくて危険 ( 8 ) \* 横断歩道がない ( 5 ) \* 横断歩道で見通しの悪いところがある ( 4 ) \* 横断歩道が遠くて不便 ( 3 ) \* 大きな交差点で渡りきれない・怖い ( 2 ) \* 信号に時差があり分かりにくい \* 歩行者信号が短すぎて幼児は渡りきれず、隙を見て渡ったりする \* 信号がない上車が見えにくい。子どもはミラーをみない \* 小さな交差点で横断歩道もなく、渡るのに大人でも躊躇する \* 横断中車が迫ってくるので走らなければならない \* 角にミラーがないので車が来るのを耳でしか確認できない、など

自転車・歩行者のマナーの問題 ( 23 )

\* 自転車が多い・危険 ( 8 ) \* 自転車の信号無視が多い ( 4 ) \* 歩道を自転車が通る ( 3 ) \* 赤信号で渡る大人が多い ( 3 )、など

車の多さや生活空間への侵入、車優先などの問題 ( 22 )

\* 大型車の往来が多い ( 5 ) \* 道路があまりにも車優先に作られている ( 2 ) \* 住宅街を大型車が通る \* 車がすごいスピードで通るとき、音と風であおられる \* 幅4mの住宅街の道路も抜け道に使われる \* 車が多すぎる \* パスがガラガラなのに小人数を乗せた車が多く走っている \* 車が来た時、二人並んで歩くのが悪いように思える (道巾はあるのだが) \* いつ車に轢かれるかヒヤヒヤしながら暮らしている、など

保育上の苦勞・その他 ( 14 )

\* 子ども達は幼く、ルールやマナーを知る途中なので心配 \* 多数の子どもを保育士が分かれて見るが突然なにがあるかわからない。身動きがとれないこともあり大変、など。

## ... 子どもは右左折車、トラック、坂道の怖さなどを記入 ...

子どもの回答で、「その他」に記入された意見には、歩道の問題のほか、右左折車の怖さ、トラックなどの威圧感やスピードへの恐怖などが、子ども独特の実感を伝える表現で記されている。坂道の怖さを伝えるも

のも4件あり、これは自転車に乗っているときと思われる。心身ハンディ児の意見には車椅子で外出時の危険が記されている。

### 「その他」欄への子どもの記入意見 ( 38 件 )

( ) の数字は同種の意見が複数ある場合のその数



子ども自身の回答

#### 歩道の整備に関連した意見 ( 7 )

\* そもそも歩道があまりない \* 歩道のない部分があるのでこわい \* 歩道に車が乗り入れるので困る \* 雪が凍ってすべるのがこわい \* 歩道が斜めになっていて歩きにくい \* 歩道の電柱や看板がじゃま \* 自転車屋さんの店の前にその店で売っている自転車が歩道に出ているので歩きづらい

#### 信号や横断歩道に関連した意見 ( 5 )

\* 信号がない \* 信号が青になって行こうとしてもいっぱい車が曲がってきて渡れなくなる \* 上下左右から車がくる \* 歩行者の青信号が短い \* 横断歩道を自転車で渡る人が多いのでこわい

#### そのほか歩行中に感じるこわさなど ( 17 )

\* 坂道がこわい ( すぐ道路に出るなど ) ( 4 ) \* 狭い道にトラックが通るとこわい ( 2 ) \* トラックがすごく多い。特に川崎街道 \* ともちとといっしょに歩けないとこわい \* バイクがすれすれにスピードを出して走っていくのでこわい \* 車が自分のほうに突っ込んできそう \* 通学路に工事用トラックが駐車して歩いて歩けない \* 走っているとき車が出てくるからこわい \* 車が通るからこわい \* 工事中なので石にスリップする \* 車がときどきうるさい \* 山にあたりそう

#### こわくないという意見など ( 6 )

\* あんまりこわくない ( 3 ) \* しゃべりながら歩けるからぜんぜんない ( こわくないの意味か ? ) \* 道路で遊びたくない \* 電車がこわい

#### 車椅子での外出に関連した意見 ( 3 )

\* 大きな歩道でも、車道側がスロープになっていると、車いすが車道側に傾くので、介助者は、要注意。 \* 横

断歩道の真ん中に、分離帯がある場合に、車いすの前輪がぶつかり、前進する勢いでつんのめり状態になった事があります。2 ~ 3 cm の段差でもつまづくので。横断歩道を渡る時、音楽が流れるとよいかもかもしれません。 \* 白線付近によくある雨水用の溝のフタに車椅子の前輪がはまり、前倒し状態になり、( 車いすを押していた ) お母さんが膝を打ってしまったと友人から聞きました。フタの格子の幅は、都の政策では 9 mm 幅と出ていますが、市内は 29 mm 幅が多く、前輪がはまります。危ない!



雪国の冬は、歩道がさらに消える...

( 4 - 8 ) 実際の交通事故体験やヒヤリとした体験の例 ( 全員への質問 )

**質問** ( 大人へ ) 実際に事故に遭ったり、遭いそうになったりしたことはありますか。ある場合はその様子を教えてください。( 例 : 歩道のない道で、スピードオーバーの車にひかれそうになった。etc . ) 他

**質問** ( 子どもへ ) 実際に事故にあたり、あいそうになったりしたことはありますか。ある人は、どんなことが書いてください。( 例 : 自転車にのっていて曲がり角で車とぶつかりそうになってこわかった、など )

... 事故体験やヒヤリ体験は小学生の例が多い ...

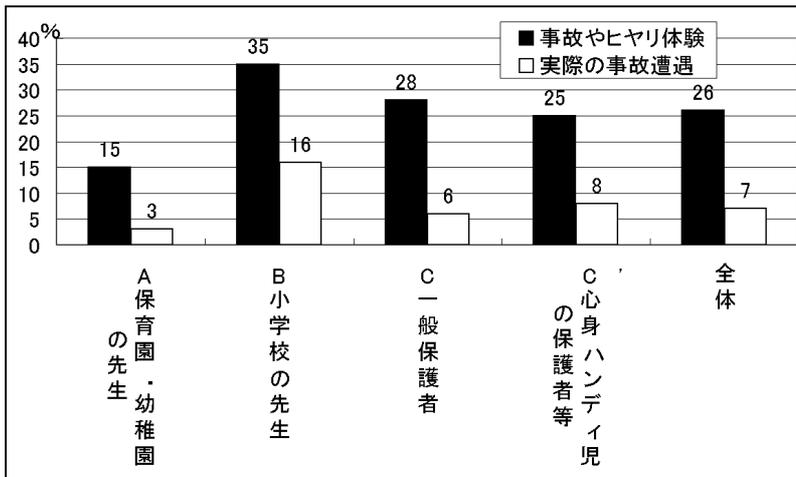
実際に事故に遭ったり遭いそうになったりした体験談記入には、大人 ( A ~ C ´ 群 ) で約 1 / 4、246 件の記入があった。各群での記入者の割合は、小学校の先生が最も高く 35% あり、その大半は小学生の例である。また、一般保護者の回答を子どもの年齢層別に見ても、7 ~ 9 歳児 ( 小学低学年 ) の層からぐんと増えている ( 体験者が不明なものもあるが、多くは子どもが体験、もしくは居合せたと推測される )。

小学生ら ( D · D ´ 群 ) の体験記述は 106 件 ( 23% ) あった。一歩誤まれば重大事故になりかねない例も多く見られる。小学生になると 1 人での行動範囲が広がるが、この年齢の身心機能では充分に対応しきれない危険が、いたる所に潜んでいる様子が見える。

体験の記述は p 32 ~ 参照。

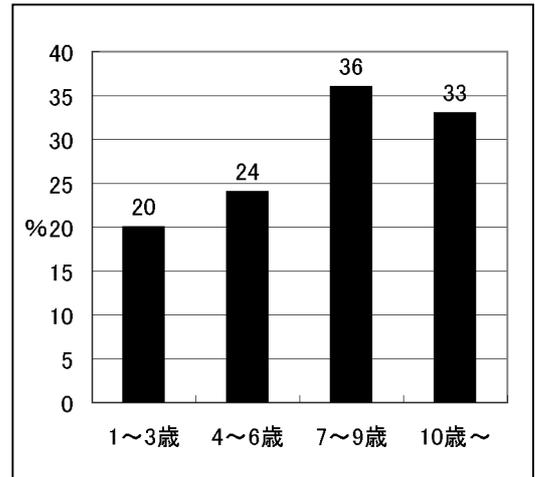
( 図 4 - 8 - A ) 大人による交通事故体験やヒヤリとした体験の記入件数 ( A ~ C ´ 群の回答 )

数字は各群における記入者の割合



( 図 4 - 8 - B ) 子どもの年齢層別に見る体験数の割合 ( C 群 : 一般保護者の回答より )

数字は各年齢層の記入者の割合



大人と子どもの、実際の事故体験やヒヤリ体験の記入件数

|            | A群: 保育園・幼稚園の先生 | B群: 小学校の先生 | C群: 一般保護者 | C'群: 心身ハンディ児の保護者等 | 全体  |
|------------|----------------|------------|-----------|-------------------|-----|
| 実際の事故体験件数  | 6              | 21         | 33        | 7                 | 67  |
| ヒヤリとした体験件数 | 25             | 25         | 114       | 15                | 179 |
| 合計件数       | 31             | 46         | 147       | 22                | 246 |

|            | 小学生と心身ハンディ児が記入した体験件数 |
|------------|----------------------|
| 実際の事故体験件数  | 28                   |
| ヒヤリとした体験件数 | 78                   |
| 合計件数       | 106                  |



... 5 割は道を歩行中、3 割は交差点や横断歩道で。  
自転車利用時の体験が多い ...

大人の回答に見る危険体験を「場所・状態別」に大別すると、道を歩行中(または自転車利用中)が5割で、そのうち曲がり角や駐車場入り口などに関連する体験が3割あった(詳細な記述ではないので、若干の推測も交えての分類である。子どもの記述は状況がつかみにくいため、分類はしなかった)。

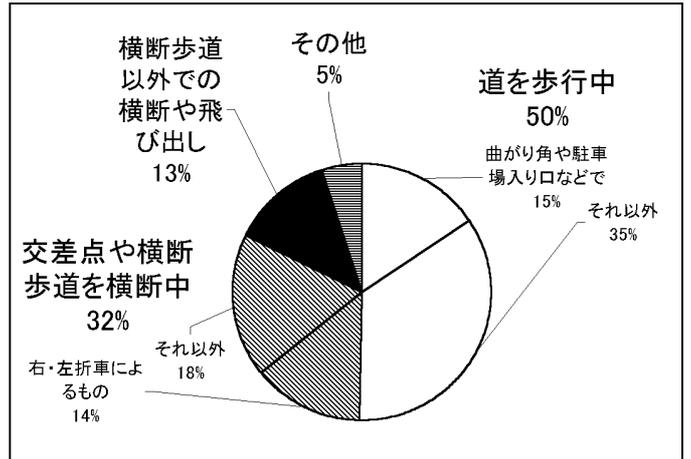
交差点や横断歩道での体験は3割あり、そのうち右・左折車によるものが半数弱にのぼっていた。

なお、実際の事故体験のうち4割強は、体験者が自転車利用中と記述から推察できる。

子どもの体験では曲がり角や駐車場出入り口での体験が23例(22%)あり、自転車利用中と明確にわかるものが35%(実際の事故体験のみでは39%)

( 図 4 - 8 - 補 1 ) 大人による事故体験やヒヤリ体験報告の場所・状態別の分類 ( A ~ C ´ 群の回答より )

あった。また、路上駐車で視界が遮られて危ない思いをした例や、クルマが体の横スレスレを走って体や衣服がこすれたり、風圧でころんだりといった記述もある。体も小さく危険回避力も未熟な子どもたちにとって、道路環境は容赦なく厳しい。



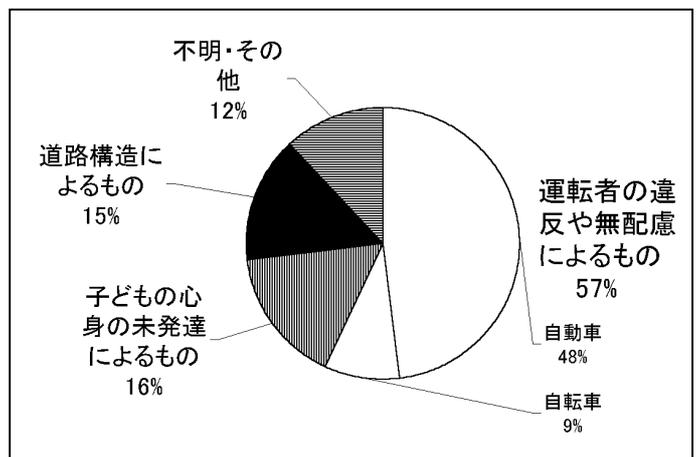
子どもによる体験報告の歩行中・自転車利用中の内訳 ( D 群・D ´ 群の回答より ) 子ども自身の回答

|            | 自転車利用中 | 歩行中 | どちらか不明 | その他 | 総数  |
|------------|--------|-----|--------|-----|-----|
| 実際の事故体験件数  | 11     | 5   | 10     | 2   | 28  |
| ヒヤリとした体験件数 | 26     | 17  | 33     | 2   | 78  |
| 合計件数       | 37     | 22  | 43     | 4   | 106 |

... 5 割以上はドライバーに原因が ...

さらに視点を変えて、大人の体験を原因の所在別に分けて見ると、スピード違反や信号無視、不注意運転など運転者に原因があると解釈できるものが5割以上あった(これも若干の推測を交えての分類)。子どもの心身の未発達によると解釈できる例は15%で、何かに気をとられての飛び出しなどが多い。このような行動傾向についてはp38以降で見ていきたい。

( 図 4 - 8 - 補 2 ) 大人による事故やヒヤリ体験報告の原因の所在別分類 ( A ~ C ´ 群の回答より )



は実際の事故、\*はヒヤリとした体験。

道を歩行中（124件）

## 【曲がり角や駐車場出入口などで】

児童が自転車で走行中曲がり角からふくらんで出てきたため直進のバイクとぶつかった（児童の事故はほとんどが自転車とバイクの衝突で、年に1件ほどある）

4年生が自転車でスピードを出して坂を下っていき、T字路で車と接触

駐車場から左右確認せずに出てきた車と衝突

歩道を走っていて、横の小道からとび出してきた自転車にぶつかった

狭い道から車が左折してきてスピードを落とさなかったためぶつかった

出会い頭でバイクと衝突

横道より車が出てきて自転車に乗っていたときにドン。肋骨の痛みが数日続いた

駐車場出入口で車にぶつかった（自転車で）

\* T字路で前方不注意の車にひかれそうになった

\* 路地から出た所で車がスピードを落とさず走っていたので、後ろを走っていた子どもがぶつかりそうに

\* 歩道のない路地を家の塀沿いに右へ曲がろうとして左折の大型トラックとぶつかりそうになった

\* 交通量の多い道路沿いマンションの駐車場から出てきた車が、歩行者がいるのに道路の車の流れだけに気を取られていてぶつかりそうになった

\* よく事故のある十字路で車と車が接触事故を起こし、立っていた角に車が突っ込んできて壁と車の間にはさまれそうになった、など

## 【曲がり角や駐車場出入口など以外】

3月に1年生が自転車で車と接触。歩道と車道がはっきりしていない校区内で

トラックが通り過ぎるとき、指を自転車のハンドルとトラックではさまれた

自転車で子どもを後ろにのせ歩道を走行中、他の自転車と接触、腕を骨折した親子がいる

自転車に乗っていて車に幅寄せされ、ぶつかった

自転車で走行中トラックに幅寄せられて側溝に転落止まっていた車がいきなりバックしてきて後ろを通ろうとしていた自転車と接触。無事だったが

自転車で走行中、見えない家の横から車が車道すれすれに飛び出してきてぶつかった

自転車で遊んでいて車に撥ねられた

自転車で歩道のない道で遮断機が開くのを待っていたら、うしろから車にぶつけられた。相手は携帯電話中で車の中で手を軽く挙げて謝りもせず去った

ブレーキとアクセルを間違った車に後ろから追突された（当方自転車）

歩道を通行中、学生自転車と接触

カーブミラーで確認せずに突っ込んでくる自転車と正面衝突（当方自転車）

子供が中学生の時、車と接触し、自転車こわれる（ケガはなかった）

歩く児童をよけた自転車の人が車道に出て車と接触歩道のない道でわき見運転による事故で左足を骨折

2年生が団地内でバイクとぶつかった

抜け道となっていて接触事故があった

ランドセルが車と接触

歩道のない道でスピードオーバーの車にひかれた

傘をさして歩いていた時に傘に引っ掛けられた

歩道を歩いているのに、後からスピードを出した自転車にぶつけられた

\* 路上駐車が多く、走行車に気づかず子どもが飛び出した

\* 車の陰からバイクがとび出てきてあやうくはねられそうになった

\* 家の前が抜け道なのでスピードオーバーの車に子どもがひかれそうになった、など

交差点や横断歩道を横断中（78件）

## 【右・左折車によるもの】

雨の日に自転車で横断歩道を横断中、右折の車にぶつけられた（車の下に自転車がまき込まれた）

自転車に乗っていて左折車に接触された

子供を後ろに乗せ自転車で直進中、右折しようとした対向車に接触。前輪が曲がり使用不能に。体は無事

信号のない横断歩道で左折車と自転車でぶつかった

右折のウインカーを出さないで曲がろうとした車と、子どもを乗せた自転車でぶつかり転んだ

青信号で横断しようとして曲がり角からきた車とぶつかり腕の骨を折り、車は逃げた

左折車との接触（黄色でつっこんできて）

信号のある横断歩道を横断中、左折車に接触された幹線道路で青信号横断中、左折車にぶつけられた

信号の所で左折車にぶつけられた

雨の日横断歩道を青信号で横断中、前の人が左折車に巻き込みされた

\* 子どもの自転車が青信号で渡っているのに、左折車が気づかず進入してきてぶつかりそうになった

\* 右折車に児童が接触しそうになった

- \* 横断歩道で後方からの右折車にはねられそうに
  - \* 横断歩道で右折車が猛スピードで来て、子どもは全速力で渡りきろうとし、ひかれそうになった
  - \* 横断歩道を渡っている時に右折車が止まらずにものすごい勢いで通った
  - \* 歩行者用の信号がなく、車はどんどん曲がってくるので、急いで渡ろうとしてひかれそうになった、など
- 【右・左折車によるもの以外】

民家の塀で見通しの悪い交差点（歩道がない）で自転車に乗った児童が飛び出し車と接触、手首の骨折  
道路を自転車で横断中脇見運転の車にはねられた  
自転車で信号待ち中、コンビニ駐車場よりバックしてきた車が当たってきた

日光の関係で車と歩行者（横断歩道）が接触  
車の多い横断歩道で放課後遊んでいて接触事故  
児童が信号無視の車とぶつかった  
歩道橋で自転車がスピードを出し子どもに衝突  
子どもが小学1年の時、カーブミラーが高くて子どもの目には見えず、横断歩道ではねられた

青信号で横断中、前方不注意の単車にぶつけられた  
横断歩道を歩いていたにもかかわらず乗用車と接触  
青信号直進中、信号無視のバイクにぶつけられた

- \* 信号が青になり子供が走り出そうとした時、信号無視の直進車が猛スピードで横切り、ひかれそうに
- \* 信号を渡る時、目の前を赤信号を無視して車が通り抜けた。すごいスピードだった
- \* 赤信号になるギリギリでつっこんでくるトラックにぶつけられそうになった、など

#### 横断歩道以外での横断や飛び出し（32件）

園の駐車場で降りて親を待たずに道路に出て車にぶつかり、軽傷

道路がカーブしている、建物等で見えにくくなっている等で飛び出したため事故にあった

6月園児が自宅脇の道路に飛び出し、車と接触した  
下校中、1年生が右からの車だけに注意し、通り過ぎたので車道に走り出し、左から来た車にぶつかった  
団地内を走っている車に狭い道から飛び出して衝突。

#### どちらも軽傷

4年前信号がないところで渋滞の間から飛び出した子どもが対面を走る車にぶつかった。その後信号がついたが時差信号なので間違いやすい

現任教で1年男子が下校途中、通学路を鬼ごっこしながら歩いていて遊びに夢中になり、注意しながら徐行運転していた車に飛び込んでいき、けが

2年男子が下校途中通学路を友達とおしゃべりしながら歩いていて突然道路の中央に飛び出し、徐行運転中の車に自分の方からぶつかっていき、けが

1年男子が幹線道路の向こうにいる母親を発見し、赤信号なのにいきなり道路を横切り路線バスと接触  
家のそばで飛び出して車と接触

横断歩道が遠く、交通量の多い道を横切り車にぶつかった子を見た

左右確認せずに自転車で道路を横断し、バイクに衝突。スピードが出ていなかったので大事に至らず

小学校の時、登校時（バス通学）に横断歩道なく、バス停が反対にある為手を上げ横断中車に接触しけが  
家の前の道路を横断する時、直進車にぶつかった  
自転車で乗っていてとび出して車にぶつかる

\* ボールがフェンスから出てそれを拾いに飛び出し、車が急停車

\* 幹線道路を遠足の帰り道に歩いていて、子どもがボールを落として道路に取りに走って車にひかれそうに

\* 歩道のない道で端を並んで歩いていた子がふざけて中央に飛び出し、車が急停止

\* カーブした道で走ってくる車が間近に来るまで見えず、子どもが飛び出した。カーブミラーは子どもには見えない

\* 4歳の娘が反対車線に停車した私の車に向かって走り出し、通行車両にひかれそうになった、など

#### その他（12件）

昨年暮、園職員が帰宅途中、自転車に乗っていて車にはねられ、現在も病休中。

\* 園バスを降りたあと、後方の車が急ブレーキ

\* 学校への送迎車（父母）とぶつかりそうに、など



自転車(+三輪車)利用中とわかるもの(37件)  
 自転車にのっていて車とぶつかった(2)  
 自転車にのって坂を下りていてバイクとぶつかった  
 自転車でバイクとぶつかった  
 自転車でうしろから車がきて事故った  
 自転車と自転車でぶつかった  
 家の庭から自転車で飛び出し、車にぶつかった  
 うちの前のすぐ曲がった所に坂道があり、自転車で  
 ブレーキをかけたのに車とぶつかってしまった  
 自転車のタイヤと車のタイヤがぶつかった  
 自転車で坂を下りてた時、すごいスピードでトラッ  
 クが走ってきて、よけようとして電信柱にぶつかった  
 前に、三輪車にのっているとき車にひかれた  
 \* 曲がり角で車とぶつかりそうになった(7)(うち1  
 件は「原因はミラーがなかったからだと思う、と付記。  
 もう1件は坂道を下りてたとき、と付記)  
 \* 車にひかれそうになった(6)  
 \* T字路でバイクが下からきてぶつかりそうになった  
 \* マンションを出た所で車でぶつかりそうになった  
 \* 自転車に乗っていて道路の縁石にのりあげて転倒し  
 たことがある。電信柱にぶつかったこともある  
 \* 歩道がない道で後ろから大きい車がきて、横に自転  
 車を寄せようと思ったら車にすれすれでころんだ  
 \* 駐車していた車のせいで動いている車が見えなくて  
 ぶつかりそうになった(コンビニ前で)  
 \* 自転車に乗っていたら車がバックしてきた  
 \* 自転車でころんだとき、車にひかれそうになってこ  
 わかった、など

歩行中とわかるもの(22件)  
 学校から帰るときバイクにぶつかった  
 歩いて帰ってきたときすり傷だけど車とぶつかった  
 曲がり角で自転車にぶつかった  
 小さいころ車にひかれてだぼくした  
 冬に歩いてたら、滑ってぶつかったからこわかった  
 \* 車が急に飛び出してきて事故にあいそうに(3)  
 \* スピードを出している車にひかれそうになった(2)  
 \* 歩道のない道で車にはねられそうになった  
 \* 雪で狭い道を通っていたら前からスピードを出して  
 いる車がきて、ぎりぎりまでよけたが背中がかすった

\* 駐車している車がじゃまで、車にひかれそうに  
 \* 横断歩道が狭くて車が自分の服をかすって怖かった  
 \* 下校途中、後ろからバイクにひかれそうになった  
 \* 信号のない十字路で友達と遊びながら歩いていて、  
 走ってきた車にぶつかりそうになった  
 \* ほかの人が横断歩道を歩いていたからぼくも歩いた  
 らまだ赤だった、など

どちらか不明(43件)  
 曲がり角で車とぶつかった(3)  
 車にはねられた  
 よそ見して車にぶつかった  
 トラックにぶつかった  
 じこは一回ありました  
 青なのに、わたろうとしたら、車がきてぶつかった  
 横断歩道をわたってたら、すごいスピードで車がき  
 てはねられた  
 事故で足をくじいてあるけなくて学校を休んだ  
 \* 青信号なので渡ろうとしたら車がきて怖かった(3)  
 \* 駐車場・コンビニ出入り口からでてくる車にぶつかり  
 そうになった(3)  
 \* いきなり曲がり角に車(トラックなど)が曲がって  
 きてこわかった(3)  
 \* 細い道で急に車がとびでてきてぶつかりそうに(2)  
 \* 坂道からおりたところの横道からトラックがでてき  
 て、ひかれそうになった  
 \* 曲がり角で止まっている車と接触した  
 \* 道路の真ん中でバスとバスの間にはさまれそうに  
 \* 大きなトラックが横をビューンと通ってこけそうに  
 なってこわかった(ガードレールもない)  
 \* 県道で車がすれすれ横をすぎて風圧で倒れた  
 \* 渡るときよそ見してたからぶつかりそうになった  
 \* 車が自分たちにすごく近づいてきてこわい  
 \* 家に帰ろうとして走っていたら車がスピードを出し  
 てきたときに一瞬体が動かなかった、など

その他(4件)  
 車からおりたとき事故にあった(救急車で運ばれた)  
 車にのっていたら自転車がぶつかった、など

## 参考データ 2

### 子どもの歩行中・自転車利用中の事故被害状況

歩行中・自転車利用中にクルマによって死傷させられる子どもは、15歳以下で年間6万人近い。毎日160人前後の子どもが、歩いたり自転車に乗ったりしていて輪禍にあっていることになる。

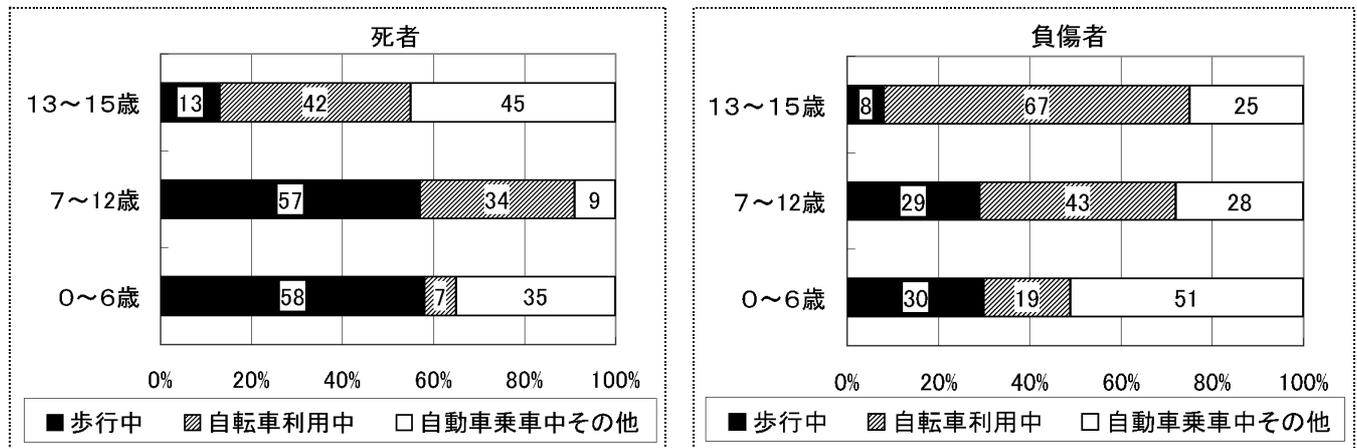
12歳以下の子どもについてみると、交通事故死傷者の6割（ほぼ小学生にあたる年齢の7～12歳では8割）は歩行中・自転車利用中によるもので、その数は年間4万人を超え、死者は200人近い。

自転車の事故は年齢が上がるにつれて増える傾向にあり、とくに負傷者が増えている。7～12歳では事故負傷者の4割を超え、13～15歳では7割近くにもなる。

参考：「交通統計」(財)交通事故総合分析センター1997～2002年度版

\* 一般に公表される交通事故死者数は事故後24時間以内の死者数であるが、ここでは事故後30日以内の死者数を参考にした。15歳以下の子どもの歩行中・自転車利用中の事故の場合、事故後30日以内の死者は、24時間以内の死者の1.2～1.3倍になる。

子どもの交通事故に占める歩行者・自転車利用者の割合（2002年度）



参考：「交通統計」(財)交通事故総合分析センター2002年度版



どこのまちにも、事故の危険が...

#### 【4】の回答に関連して（会の所感）

##### 歩行者・自転車利用者よりクルマが優先されている日本

アンケートの回答には、子どもたちの生活の場がさまざまなクルマの危険に満ちている様子が示されています。現実の事故状況（p35の参考データ2と下記の参考データ3参照）を見ると、アンケートの結果が単に回答者の感覚的なものではなく、切実な危機感の現れであることがわかります。

この約半世紀、クルマのための道路は増設・拡張され続けてきましたが、歩道空間は軽視されてきました。しかもクルマ依存が進むにつれて、本来人の通行が主であった狭い道もクルマの走行が優先する場となり、法規違反走行も常態化し、生活圏の安全は脅かされ続けています。

クルマは便利な道具であるとともに一瞬のミスで殺傷道具ともなるものです。そのことを行政も市民も責任を持って認識し、その使い方や使用基準、総量、使用場所などについて、管理・運用体制を再検討する必要があるのではないのでしょうか。

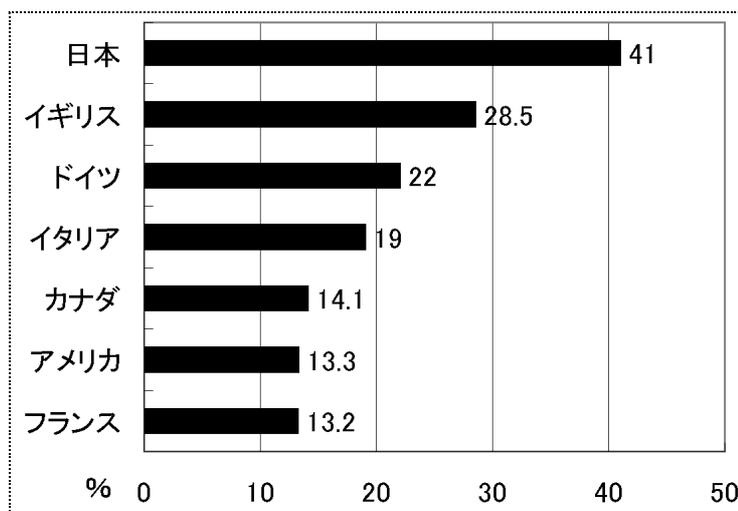
また、自転車が安全に走行する空間も少ないために、自転車利用者もクルマの危険にさらされる一方で、自身が歩行者の安全を妨害する存在となっている点も、クルマ優先社会の問題の1つといえます。自転車は環境への負荷が少なく、子どもにも利用しやすく、健康増進にも役立つ手軽な乗り物（道路交通法で軽車両に位置づけられている）です。歩行者の邪魔をすることもなく安全に走れる空間の確保、交差点や曲がり角などでの衝突防止対策、利用者への運転指導教育などを、並行して進めることが課題ではないかと思われれます。

#### 参考データ3

##### 歩行者・自転車利用者の事故被害状況

日本は、交通事故の中でも歩行者・自転車利用者が被害にあうケースが非常に多い。交通事故で命を奪われる歩行者・自転車利用者は毎年約4000人、交通事故死者全体の4割以上にのぼるが、この割合は欧米諸国に比べてはるかに高い。歩行中、自転車利用中の死傷事故総数は年間27万人近くになる。

交通事故死者に占める歩行者・自転車利用者の割合



\* 参考：2001年 IRTAD データ

#### 参考データ4 日本の歩道の現状

国土交通省では、幹線道路と市街地での2車線以上の道路約26万kmを、歩道設置必要延長として、21世紀中に歩道設置の目標を掲げている。それに対する歩道(幅1.5m以上)設置率は平成13年度で56%になる。また、特に市街地の道路13万kmでは幅3m以上の歩道設置を目標としており、それに対する設置率は32%である。

ただ、全国の一般道路(高速道路や自動車専用道路を除く道路)の総延長に対する歩道の設置率は、わずかに13%である。住宅街の道路など人々がよく往来する道の多くは歩道がないか、狭くて歩道を設置できない状況にある。言いかえると、歩道空間もとれない道でもお構いなしにクルマが走っているわけである。平地面積の少ない日本では、道路拡幅も容易ではない。歩道新設ばかりでなく、限られた面積を、人の安全を第一に考えて使い分ける対策も欠かせないのではないだろうか。

参考：「交通安全白書」2002年度版および国土交通省道路局の話



クルマいすの人にとっても、道は受難の場...